

H25省エネ基準に基づくプログラムからH28省エネ基準に基づくプログラムへの主な変更点

非住宅	住宅
<p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建築物省エネ法で規定された基準値に変更 ○BEI(設計一次エネ消費量/基準一次エネ消費量)の定義の変更 ○ラベル生成機能の追加 	<p>エネルギー消費性能計算プログラム(住宅版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体 <ul style="list-style-type: none"> ・建築物省エネ法で規定された基準値に変更 ○外皮関係 <ul style="list-style-type: none"> ・q, m_c, m_h値入力から、外皮面積の合計、および$U_A, \eta_{AH}, \eta_{AC}$値の入力へ変更 ○暖冷房関係 <ul style="list-style-type: none"> ・暖冷房エネルギー消費量の計算方法を変更 ・ダクト式セントラル空調機の入力項目を増やし、出力補正の有無、消費電力量補正、定格能力、定格消費電力が入力できるよう変更 ○給湯関係 <ul style="list-style-type: none"> ・給湯専用型のガス石油を従来型と潜熱回収型に分け、それぞれに効率を入力しない場合のデフォルト値を設定 ・給湯設備(水栓)がない場合の選択肢を追加。併せて、浴室等がない場合の選択肢を追加 ・石油・ガス給湯機の効率の入力方法を追加 ・太陽熱給湯の集熱面積の入力方法を追加 ○照明関係 <ul style="list-style-type: none"> ・LED照明の評価を追加 ○太陽光発電関係 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーコンディショナーの効率の入力方法を変更 ○コージェネレーションシステム関係 <ul style="list-style-type: none"> ・コージェネレーション設備の性能の試験方法が作成されたことを受け、パラメータを直接指定できる方法を準備 <p>※ただし、試験結果から得られる仕様を直接入力するのではなく、住宅性能評価・表示協会において試験結果に関する情報を管理し、本プログラムからは型番を選択することで間接的に試験結果から得られる仕様が評価に反映するような仕組みを構築。</p>
<p>エネルギー消費性能計算プログラム(非住宅版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計算ロジックの調整 <ul style="list-style-type: none"> ・外 皮: 開口部の評価法変更(建具込の窓性能で評価) ・空 調: 全熱交換器の評価法調整 ・空 調: 地中熱ヒートポンプの評価法追加 ・空 調: 蓄熱槽効率を選択式に変更 ・換 気: 換気代替空調機の評価法調整 ・給 湯: 節湯器具の評価法調整 ・効率化設備: 太陽光発電の評価法調整 ○データベース <ul style="list-style-type: none"> ・建材、窓の物性値データベースの更新 ・負荷計算パラメータの更新 ・給湯の室用途別湯使用量に関するデータベースを追加 ○入力シートの拡張 <ul style="list-style-type: none"> ・熱源機種等の名称を更新(JIS等へ合わせるもの) ・照明制御の選択肢変更 	
<p>モデル建物法入力支援ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中央式熱源の評価ロジックを追加 ○モデル建物を追加(8用途から15用途へ) ○評価ロジックの調整 <ul style="list-style-type: none"> ・非空調コア比率が空調一次エネに与える影響を反映 ・空調面積あたりの熱源容量を入力 	